



3年生, 本格始動

6月に入り, 3年生は放課後も各教室で集中して学習に取り組んでいます。下校時刻まで教室に残り, 学習を継続する生徒も大勢います。その日の授業内容を定着させる時間として, あるいは弱点克服の時間として, それぞれが意図をもってこの時間を活用しており, 生徒によっては学校だけで2時間程の学習時間を確保しています。「受験は団体戦」です。放課後の教室で必死に努力している姿をお互いに見て高め合っていきましょう。

7月下旬からは三者面談が実施されます。学習と並行して進路研究にも励みましょう。志望理由を明確にし, 「複数」の選択肢を設定しておく, より有意義な面談になります。また, 総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒は, この面談で明確な意思を示しましょう。受験を実感できるようになると, 学習効率も上がります。自らの士気を高めて夏を迎えましょう。

中間考査の復習

前期中間考査の答案が返却されて2週間が経ちましたが, 質の高い「復習」ができたでしょうか。

テストの復習 (Review) をするときには, 不正解だった問題はもちろん, 正解した問題についても, 正しい手順で正解できていたのかの確認を怠らないことが大切です。また, 復習と同時に, 同じ手順で同じ答えを再現できるか, 再構築 (Restructure) も意識しましょう。今後はこの2つの「R」を意識し, 提出のためのテスト訂正ではなく, 大切なことを自分に定着させるテスト訂正にしていきましょう。

また, 成績に関しては, 全教科あるいは各教科の「総点」に目が行きがちですが, 大問ごとの自己分析を怠らないようにしましょう。そして「化学平衡」「内積」「接続助詞」など, 自分の苦手分野を絞り込んで紙に書き出し, 「見える化」をしましょう。自分の課題が分割されると, 目的意識が高まります。目的意識が高まれば, その分野に集中できます。この状態を作ることが弱点克服への道となります。

1年生は, 「知識・技能」でどれだけ正答できたかを確認してください。「思考力・判断力・表現力」を支えるのは, 基礎知識と語彙力です。この部分の定着が, 学力向上のペースアップにつながります。配点の高い問題は確かに気になりますが, 決して基礎基本を疎かにしないよう, 心掛けましょう。

模試を有効なものにする

3年生は今年度, すでに2度の模擬試験を受験しています。7月2日には, 3学年全てが模擬試験を受験します。復習の「視点・方法」については前述の通りですが, ここでは「タイミング」について紹介します。

■1回目ー受験してすぐ

「正答だがあやふやだったところ」「間違えたところ」等を洗い出し, 模範解答を見ながら解き直す。

■2回目ー受験後1~2週間

1回目の復習ポイントを中心に, 再度 Restructure (再構築) をして知識を定着させる。

■3回目ー成績表の返却時

合格可能性判定を確認し, 志望大の合格ラインまであとどれくらいなのかを数値で把握しよう。次に教科・科目別のアドバイスをチェックし, 今後の学習計画の参考にしよう。

大学入試は, 知識や計算スキルなどが十分に身に付いていることが前提です。同時に, スピードも求められます。これは前回の大学入学共通テストにおける「読む量」の増加からも明らかです。復習の質を高め, 積み上げた力をスムーズに引き出し, 時間内に解答を完成させることができるようになります。

オープンキャンパスに参加しよう

オープンキャンパスは, 進学相談や模擬授業など, 大学について詳しく学べる機会です。実際に大学に足を踏み入れ, キャンパスの雰囲気を感じ, 学生と交流することは, 自分の志望を固める機会となります。オンライン形式も魅力的です。通常であれば行けないような遠方の大学でも, オンラインなら参加できます。また, 可能であれば複数のオープンキャンパスに参加しましょう。授業・設備・周辺の環境など, 共通の項目を設定し, 客観的に比較すると考えが整理されます。

鹿児島大学:8/4~8/10, 理学部はオンラインのみ実施。

その他の学部は対面・オンライン両方を実施。

九州大学:8/1 オンラインのみ実施。

九州工業大学:情報工学部は7/16・17 対面とオンライン。

工学部は8/5・6 対面とオンライン実施。

なお, 現地開催もオンライン実施も申込はWEBからになるので, 各自で各大学のHPを確認しましょう。

大学入学共通テストまであと198日。頑張れ3年生!

未来は自分で創るもの。

でも、まずは、すでにあるもの＝「先人の知恵」をしっかりと学ぼう！
「地図にない町」を見つけるには、はじめに「地図」が必要である。

SDGs, DX, 人口減少社会・消滅可能性都市…新しい社会が必要とされているところへ、ロシアのウクライナ侵攻によって未来予想図は、さらに混沌としてきた。

平和・自由・人権、そして未来は、誰が守るのか？
そもそも、これらは絵空事である。「そうであって欲しい」という人間の切なる願望である。
しかし、実現は不可能なのかもしれないが、「決して諦めてはならない課題」だと考えている。

さて、どう取り組むか？
身近なことから考え始めよう！自分と自分の家族をどう守るのだろう？
例えば、少子高齢社会というキーワードから考え始めよう。
少子高齢社会は他人事ではない。自分と自分の家族、生まれ育った地域の問題である。

「若い世代は損をしている」などという言説に踊らされてはいけない。
そもそも、損得の問題なのだろうか？
お年寄りの多くは、経済的理由で大学になど行けなかったが、中卒で集団就職して、
「乾いたタオルでも、知恵を絞れば水が出る」と言われながら、
尋常ならざる努力をして、工夫を重ねて、
働き過ぎだと言われながらも、奇跡の「高度経済成長」を実現した。
「お年寄り」は、**「国の宝」**である。

我が身を振り返れば、自分の「言い訳」の多さに悲しくなる。
じいちゃんたちに比べればお金と自由に恵まれ、個性とプライベートを大事にして貰っているのに、
親や社会にどれだけの恩返しができているだろうか。
じいちゃんたちが弟妹の教育費などの足しにと親に仕送りをした年のころに、
自分は親から金を出して貰うのだから、それに見合うものを身に付けねば！
じゃなきゃ、自分の年金の取り分が少ないなんて、どんな顔して言えるのだろう？

3000年ほど前の地層から、見つかった木の実が条件を整えてやったら、芽を出した！
という記事を、高校生の頃に読んだことがある。

自ら動けない植物は、じっと耐え、時を待ち、決して諦めない。
例えば、タンポポは、ふわふわと飛んでいって落ちたところで成長する。
それに比べ、人間とは、何と弱い生き物だろう。

自ら動けるのに、チャレンジせずに諦めるなんて…。
僅か数回の挑戦で挫けてしまうなんて…。

「花は、植えられたところで、大輪の花を咲かせる」

そう、負けてはいられない。
何度でもチャレンジすれば、きっと、「未来はボクらの手の中」にある。
三日坊主でも挫けず、四日目ダメでも、五日目からまた、三日坊主を繰り返そう！

三日坊主なら、繰り返せ！

それでも人生の4分の3は思い通りに生きられる！

タンポポに負けるな！

「アユミを止めるな！」

2年6組 担任 今井 克哉

6月は祝日がない上に、ジメジメした日も続き、なかなか自身の気分を保つことが難しかったことでしょう。7月に待ち構える夏休みに、首をキリンのように長くして待ち望んでいる様子が目に浮かびます。部活動に、学習に、家族旅行に、と…夏休みへの心意気は人それぞれでしょうが、夏休みをより充実したものとするためには、やはり計画が大事であることはいまでもありません。2年生としての〈夏攻略法〉を伝授します。

○苦手科目と向き合うー「学習習慣の維持」

授業が止まっている夏休みだからこそ、チャンスです。授業が止まっているからといってダラダラした生活で学習習慣が崩れてしまえば最悪です。チャンスはピンチです。自分を磨くために時間を使えることを前向きに捉えましょう。いつ、どこで、何を、どのくらい学習するのか、具体的な計画に沿って実行するのです。

○オープンキャンパス等の活用ー「進路意識の向上」

外部模試や進路志望調査では具体的な志望大学や学部・学科を書けたでしょうか。まだ具体的でない人も多くいるでしょう。進路が未定な人はもちろん、進路が固まってきている人も、自分の進路に関する情報を集めることで自身の将来像をふくらませていきましょう。具体的に、本やインターネットで情報を集めることに加えて、オープンキャンパスへ積極的に参加しましょう。新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスへの参加が難しい場合には、WEBを通してオープンキャンパスを開催予定としている大学がありますので、確実にチェックしておきましょう。

○熱中するものを作るー「幅を広げる」

高校総体で先輩達が引退して、部活動内で中心学年になった部活動も多くあると思います。当然、中心学年になることで生じる責任の重さや負荷は大きくなることでしょう。ただ、何かを背負って、そして打ち込んだ経験は後の人生において自分の軸となります。部活動でなくても、「この夏は〇〇をやり遂げた！」と自信をもって人に語るができるような、そんな経験を試してみましょう。

「忙しい？ゲーム・スマホはできるのに？」生徒指導室前に貼られたポスターに「令和3年度情報モラル啓発活動に関する標語最優秀賞作品」として載せられていました。言い訳をしたり、目の前の苦しいことから目を背けたりすることは簡単です。「忙しいから」という理由付けをして、無駄に時間を使ってしまう寂しい夏休みにならないことを願って。

「喝」勝利を君に

3年6組 副担任 福久 高文

孟子曰、「仁之勝不仁也、猶水勝火。今之爲仁者、猶以一杯水救一車薪之火也。不熄則謂之水不勝火。此又与於不仁之甚者也。亦終必亡而已矣。」

(孟子曰く、「仁の不仁に勝つや、猶ほ水の火に勝つがごとし。今の仁を爲す者は、猶ほ一杯の水を以て一車の薪の火を救ふがごときなり。熄まざれば則ち之を水火に勝たずと謂ふ。此れ又不仁に与するの甚だしき者なり。亦終に必ず亡はんのみ。)」

本格的に勉強を始めて結果はどれくらいで出てくるものだろうか。明日結果が出るのは漢字の小テストや英単語のテストぐらいだろう。それだって全く初めて取り組んだ人と、今までずっと取り組んできた人とは違うはずだ。まして総合力としての学力は一朝一夕に身につくものではない。

結果を出すのは総合力である。それは3ヶ月後かも知れない。4ヶ月後かも知れない。しかも徐々に出るものでもない。いきなりぐっと上がるのである。例えば海面下で氷の塊のように実力が膨らんでいく。それはなかなか見えない。しかし塊は努力に応じて確実に大きくなっている。努力は決して裏切らない。勉強しただけのものは必ず脳に蓄積される。それは絶対的事実である。

ただし、それは必要に応じて引っ張り出せないとなんの意味もない。結果が出ないのは脳の中のものを必要なときに引き出せないからである。脳の中のものは関係づけられることによって引き出されてくる。バラバラのものが互いに繋がったとき一気に現れ出るのである。それは氷山が一気に海面上に浮上してくるようなものである。しかし、脳の中が整理されるには時間がかかる。自分の意志が関与できない部分も大きい。

それがいつ来るのかは分からない。こんな話がある。昔、舟で極楽を目指した者がいた。行けども行けども極楽に到達できず、やけになって櫂を投げ捨てようとした、その時、ふっと後ろに気配を感じる。振り返るとそこにはなんと、仏様が立っていたのである。どこでどのように結果が出るかは誰にも分からない。信じるしかないのである。自分が自分を信じないで誰が信じてくれるだろう。自信というのはそのようなものである。

しかしこれはあくまで努力している人の話である。人間は自分に甘い。だから自分と真っ正面から向き合わない。昔、四六の蝦蟇が、四面に立てた鏡に映る己の姿に恐れ戦き、脂汗をたら一り、たらり流したという。それを傷の特効薬、蝦蟇の油として売った。己の「姿」を見るというのは蝦蟇でさへ脂汗を流すくらい恐ろしいことなのである。

自分は努力していると思いたい、いや結構しているのではないか、うん、自分は頑張っている。きっと大丈夫だ。そこに孟子が現実を突きつけるのである。「わずかばかりの努力をして、大いなる難題に挑もうとするが、それは、まるで器一杯の水で、車一杯乗せた沢山の薪の火を消そうとするようなものである。」

努力している人は自分を信じて入試の日まで頑張り抜いて欲しい。しかし努力していると勘違いしている人は早く夢から覚めて欲しい。

「喝」

さすれば勝利は君たちのものだ